

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4075100273		
法人名	竹井不動産有限会社		
事業所名	グループホーム ひまわり		
所在地 (電話番号)	〒811-4203 福岡県遠賀郡岡垣町内浦955-1		(電話) 093-282-7901
評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴二丁目5-27		
訪問調査日	平成21年3月30日	評価確定日	平成21年4月14日

【情報提供票より】(平成21年3月23日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成15年9月10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	26 人	常勤(専任4人兼務4人)非常勤	18 常勤換算9.5人

(2) 建物概要

建物形態	併設(単独)	築5年目
建物構造	木造平屋建て 造り	
	1階建ての	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	40,000 円	その他の経費(月額)	光熱水道料15,000円
敷金	(有) (80,000 円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円)	有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,170 円		

(4) 利用者の概要(平成21年3月23日現在)

利用者人数	18 名	男性	4 名	女性	14 名
要介護1	9 名	要介護2	5 名		
要介護3	2 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82.9 歳	最低	72 歳	最高	96 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	ふじた医院 ・ 堤病院 ・ 占部医院
---------	--------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

満開の桜並木のトンネルを潜りぬけると、三里松原、響灘を一望できる緑豊かな山林に囲まれた環境の中にグループホームひまわりがある。海や山の幸が豊富で新鮮な食材を使った料理は、利用者の健康の元となっている。利用者の誕生日には、家族と一緒に近くのホテルやレストラン街で食事会を開き、利用者、家族の楽しみの一つになっている。ホームの居間は吹き抜けて、明かり取りの窓からは柔らかな陽ざしが降り注ぎ、利用者と職員は趣味の草木染め、陶芸、書道、貼り絵などで生活がマンネリ化しないように工夫している。また、廊下や玄関には長椅子が置かれ、落ち着いた環境の中で利用者と職員が談笑しながら自由に穏やかな暮らしを営んでいる。利用者の散歩コースになっている池の畔に、ホームがベンチを提供したり、地域の清掃活動等にも積極的に参加し、地域密着型として努力を続け、利用者、家族の信頼も厚いグループホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の調査では改善点が9件あったが、管理者と職員の努力で大幅に改善されている。今後は、「地域とのつきあい」「市町村との連携」「運営に関する家族等意見の反映」「人権教育・啓発活動」等に取り組むことが望まれる。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は、職員全員が参加して作り、管理者がそれを取りまとめて作成している。評価結果を職員に回覧し、改善に向けて職員一人ひとりが努力している。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は、2ヶ月毎に開催し、家族代表、地区区長、民生委員、ホーム管理者、職員が参加し、ホームの現状、利用者の状況、行事予定や運営に関する報告等が行われ、ホームに対する意見などもあり、運営に活かしていく取り組みも行われている。また、新しい議題を取り入れ、会議のマンネリ化を防ぐことを検討中である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に、意見箱を設置し、苦情受付窓口を掲示しているが、なかなか意見が出てこない。家族だけで話し合える家族会を結成し、心配事を気楽に話し合える場を作り、家族会で意見を取りまとめホームに提出し、出来るだけ運営に反映して、家族とホームの絆を深め信頼関係の構築に繋げていくことが望まれる。
重点項目	ホームは事業所扱いとされ町内会には加入できないが、地域の清掃活動に参加したり地道な努力が実り、地域の方から地域防災組織協力の話があったりして、少しずつではあるが地域との交流が始まっている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
1. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「住み慣れた地域のなかで、明るく、元気に過ごせるために、能力に応じた自立支援と、利用者一人ひとりに合わせた介護」を目標として、ホーム独自の理念を管理者、職員全員で協力し、作成している。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員は理念の暗証は出来ないが、ホームの介護サービスのあり方を、良く理解し、実践に向けて努力している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ホームは事業所扱いとなり、町内会には加入出来ないが、運営推進会議に地区区長や民生委員に参加してもらい、地域の行事や情報などを教えてもらい、清掃活動などを行っている。		住まいとしての環境は申し分ないが、アクセスは車による移動がほとんどで、地域住民との交流する機会も少ないが、代表が地元出身というメリットを活かし、時間をかけて地域との交流を図っていくことが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価の意義を職員に説明し、理解してもらい、自己評価は職員全員が参加してつくり、管理者がそれを取りまとめ、作成している。評価結果を回覧し、改善に向けて職員一人ひとりが努力している。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は家族代表、地区区長、民生委員、ホーム管理者、職員が参加し、ホームの現状や利用者の状況、行事予定や運営に関する報告等をし、参加者からは緊急時の避難訓練の参加、地域防災組織の結成協力の話など、活発な意見交換の場となっている。また、会議がマンネリ化しないために、新しい議題を取り入れていく努力をしていくことを検討している。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政と介護サービスに関することで、報告や、相談に出向き、連絡を密に取っている。		岡垣町健康福祉課などと協働で、公民館などでの介護や健康相談等の講師派遣や町職員の新人研修の場として、ホームを活用してもらったりして、地域の介護サービスの質の向上に繋げていくことが望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
7	10	権利擁護に関する制度の理解活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在該当者はいないが、将来に備え、パンフレットや資料を揃え、職員が体制を理解し、利用者や家族にいつでも制度の利用と活用を説明できるように準備している。		
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホーム便りの「ひまわり便り」やホーム独自の家族連絡ノートで、利用者の日々の暮らしや心身の状況を家族来訪時や郵送等で、定期的に報告している。		
9	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情受付窓口を掲示し、玄関に意見箱を設置して、家族等が意見や苦情を出せるようにしているが、なかなか出てこない。		家族だけで話し合える家族会を結成し、悩みや、心配事を気楽に話し合える場を作り、家族会の意見、苦情をホームに出してもらい、出来るだけ運営に反映できるようにしていくことで、家族とホームの絆を深め、信頼関係の構築に繋げていくことが望まれる。
10	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者のダメージを少なくするために、職員の異動は極力抑え、やむを得ず異動する場合は、新しい職員と馴染みながら交代していくように努力している。		
11	19	人権の尊重 法人代表者及び管理者は職員の募集採用にあたっては性別や年齢などを理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きと勤務し社会参加や自己実現の権利が十分に保障	職員の採用は年齢、性別の制限を設けず、人物本位で採用している。また、職員の勤務は出来るだけ希望に添えるように、勤務ローテーションを組んでいる。		
12	20	人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員などに対する人権を尊重するために、職員などに対する人権教育、啓発活動にとりこんでいる	人権意識を高めるために、標語や職員一人ひとりの目標等を玄関に掲示しているが、人権教育、啓発活動の研修会には参加が出来ていない。		福岡県や岡垣町主催の人権教育の研修会等、職員に参加してもらい、研修受講職員から資料に基づき、内部研修会を開き、管理者、職員全員が、情報を共有し、人権啓発活動に繋げていくことが望まれる。
5. 人材の育成と支援					
13	21	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数、習熟度に合わせて、研修期間を設け、内部勉強会を実施している。今後は機会ある毎に外部研修会に参加できるように努力していく方針である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
14	22	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	町内のグループホームと交流を行い、親睦や意見交換を実施している。今後は相互の人事交流を行い、情報や技術の交流を図る勉強会になるように努力していく方法を検討している。		
・安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居はしていないが、利用者の入居に際しては、家族の協力を得て、職員が利用者に寄り添うような形で、馴染みながら、ホームの生活に徐々に慣れてもらい、安心して暮らしていけるような配慮がある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	28	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を人生の先輩として、料理、習字、庭木の手入れ等を教えてもらったり、心配してもらったりして、共に家族の一員として支え合って暮らしている。		
・その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者一人ひとりの希望や意向を、ゆっくりと時間をかけて聴いている。また、日頃の会話の中から、したいこと、行きたい所、食べたい物、会いたい人等を聞き取り、意向の表出が困難になった時に備えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者、家族の希望や意見を聴き、管理者、職員、かかりつけ医と話し合い、介護計画を作成している。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヶ月毎に見直し、利用者の状態変化に応じて、家族や医師と相談し、その都度見直しを図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	郊外にあるため、車で移動することが多く、利用者や家族の要望に応じてホームの多機能性を活かした対応を実現できるように努力しているが、十分ではない。今後の課題として取り組んでいくことを検討している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	提携医の定期的な往診があり、24時間連絡が取れる体制で、利用者の健康管理に気をつけている。また、利用者の入居前からのかかりつけ医の受診は職員が同行している。		
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	利用者の心身の状態をかかりつけ医、家族、職員で話し合い、共有化して、利用者にとって最善の方法をとれるように、努力している。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	管理者や職員は利用者一人ひとりの誇りを尊重し、さりげない誘導や介護を心掛けている。また、個人情報の記録は鍵のかかるロッカーで保管している。		
24	54	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホームの一日の大まかな流れはあるが、利用者一人ひとりのその日の体調や希望を大切に、日々の暮らしがその人らしいものになるように配慮している。調査日の10時ごろに遅い朝食を取っている利用者もいる。		
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一日の中で利用者の楽しみの一つである昼食は職員と同じテーブルで同じものを食べ、楽しい会話の中で食欲が旺盛である。また、食材の買い出し、調理、盛り付け、配膳等を利用者と職員が一緒に行い、楽しい食事風景である。		
26	59	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週3回であるが利用者の希望に合わせて入浴できる体制である。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	職員は利用者の希望と心身の状況を判断して、散歩、習字、草木染め、歌の会、花の手入れ、レクリエーション等、利用者一人ひとりの力が、発揮出来るように支援している。		
28	63	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩コースの途中の池の見晴らし台にホームがベンチを設置し、桜の時期にそこから眺める景色はすばらしい。気候の良い日は最高の散歩コースであり、一日に何度も外出する利用者もいる。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29	68	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	管理者と職員は鍵をかけられ、外に出られない状態が利用者にもたらす心理的な不安や閉塞感を理解しているため、鍵は原則かけていないが、やむを得ない事情や、入浴の時間等、場合によっては、利用者の安全を優先して、鍵をかけることもある。		
30	73	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署指導の避難訓練以外に、ホーム独自の避難誘導訓練を定期的実施している。		地域住民や運営推進会議委員の協力を得て、夜間を想定した災害訓練を実施し、非常食、飲料水、毛布等を準備しておくことが望まれる。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の全体を通じた利用者一人ひとりの、食事の量や栄養のバランスを考えて支援している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	音や光、臭いや温度等は利用者が、居心地よく暮らせるように配慮している。また、利用者と職員が、手作りの季節感のある貼り絵等を飾り、五感で感じてもらうように工夫している。		
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は家族の協力で、出来るだけ自宅で生活していた時の状態になるように室内を飾り、違和感なく、利用者が穏やかに暮らせるように配慮している。		